

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市社会教育委員会議 (第 1 回)		
事務局 (担当課)		生涯学習課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 8 7 (直通)		
開催日時		令和 6 年 5 月 1 4 日 (火) 午後 5 時～午後 7 時		
開催場所		相模原市立総合学習センター 2 階 セミナールーム		
出席者	委 員	1 3 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人		
	事務局	8 人 (生涯学習部長、外 7 人)		
公開の可否		☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題 等		(1) 研究調査報告書概要版について (2) 令和 7 年度第 5 6 回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会について		

議 事 の 要 旨

生涯学習部長あいさつ、事務局職員紹介、秦野議長あいさつの後、秦野議長の進行により議事が進められた。

(1) 報告書概要版について

(秦野議長)

報告書概要版編集会議の結果について若林委員から報告をお願いします。

概要版について若林委員からの報告は次の通り

- ・サイズは前回定例会の意見を受けて畳んだ時に A5 サイズ縦になるようにした。
- ・すべての「もっと〇〇〇」の囲みにイラストを入れ、本編よりもイラストを多くした。
- ・本編の吹き出しや説明について、なるべく意味が伝わるように、かつ、少ない語数で取り出し、鉤括弧でくくり会話風にまとめた。
- ・本編で説明文が無く、事業のチラシのみを紹介した「もっと色々な世代が交流できる公民館」については事例の事業を紹介する「多世代と一緒に公民館でデイキャンプ」という説明にした。さらに赤ちゃんのいる親子と高校生や大学生と一緒に遊ぶという事業例を追加した。これについては別の事例の案があればご意見をいただきたい。
- ・句点について検討した結果、文の終わりが分かったほうが読み易いため、句点は付けることとした。
- ・会話文の中の別の人の台詞にあたる所を二重鉤括弧にし、強調したい言葉はダブルクォーテーションマークで囲うこととした。
- ・前回定例会で提示した見本で「〇もっといろいろな人が企画に関わる公民館」の下にあったコラムの吹き出しについては、これだけを載せると唐突なので削除した。
- ・ルビについて、試しに文字を入れたところ、ルビを付けると体裁が崩れてかえって読みづらくなったため、今回配布するものはこれまでの意見のとおりビジュアルを優先にし、可能であれば web 版にルビを付けるようにしたい。
- ・一つ一つの「もっと」に本編に記載されているページを入れてはどうかという提案については、概要版と本編を照らし合わせることは無いと思われること、字数を減らしたいことから本編の該当ページは入れないこととした。
- ・一つ一つの「もっと」の囲みの中にメモ欄を作ってはという提案については、スペースの都合で一つ一つにメモ欄を作ることが難しいため、最後から 2 番目のページに読んだ方が考える「もっと〇〇〇」を書き込める囲みを追加した。

(秦野議長)

今の報告について確認したい点、ご意見ありますか。

(金子委員)

事例についてはこれで良いと考えている。ありがちなものを書くよりも「こういう公民館になろうよ」という新しいことも含めて目指しているのではとても良いと感じた。

(秦野議長)

事例についてご意見をいただきましたが、その他に意見は。

(全委員)

意見なし。

(秦野議長)

次に概要版の配布先について、本編は他自治体の他、市内7大学、生涯学習施設に送付しています。概要版については全公民館、生涯学習施設、7大学を予定していますが、ご意見はありますか。

(石川委員)

中学、高校は配布しますか。

(大久保副議長)

公民館で活動していただいている若い人たちでも高校生大学生は非常にむずかしい。小中学生はまだ地元との関わりがあるので、小中学校に配り、興味のある生徒に見てもらえると多少は前進があると思う。

(秦野議長)

中学校、高校、あるいは小中学校に送れないかというご意見がありましたが、すべての生徒に配布するのは困難だと思われるので、ご意見をお願いします。

(長沢委員)

小中学校に配るのであれば対象について勉強しないと意味が無い。小学校2年生で公共施設について勉強するので、毎年配るわけにはいかないという問題はあるものの、小学校2年生を対象にすることを検討してはどうか。

(奈良田委員)

概要版とはいうものの、小学生には内容を理解するのが難しいと思う。しかし、教員または学校に配るというのであれば、活用できるかもしれない。地域について学習する学年があり、公民館と連携することもあるが印刷物が必要ということではない。

(小林委員)

令和元年に報告書を出して概要版も作成しました。この時はどういう所に配布したのか、同時に今回の報告書はどういう所に配布して、問題は無かったのか、今回は想定している活用方法とか対象者を考えながら配布先について慎重に検討する必要があると考えている。

(金子委員)

学級に対して配布または、生徒が集まりそうな所に掲示する方法もあると思う。

(中村委員)

PTA の代表者会で配布することもできる。

内容については、ルビを付けたほうがいいと感じた。また、「障がいがある人」というところで、「障がい」という単語が適切なのか気になりました。

(秦野議長)

ただいま、学校に配布する場合、部数が足りない、小学生に配布しても内容が難しい、各校校内に掲示するとか、PTA の代表者会で配布する。この方法であれば学校に送るより伝わりやすいかもしれないので、事務局に検討をお願いします。

次に障がいという表現につきまして渡辺委員にご意見を頂けたらと思います。

(渡辺委員)

概要版の案にある「障がいのある人」という言葉に違和感があるということであれば「障がいのある方」という表現もあると思うが、個人的には気にならない。「障がいの」と書いてあっても皆さん事情が違うので、むしろ「中身のことを知ってほしい」という声のほうが大きいと思いますので言葉の使い方ということについては大丈夫かなという印象です。

(秦野議長)

本編でも「障がいがある人も」となっているので、概要版についてもそのままにしたいと思います。配布先については予算の問題もあるとは思いますが、本編を配布した先にはなるべく配るとして、事務局の意見は。

(事務局)

今回の報告書の配布先について、市内に限ると公民館、生涯学習施設、市内7大学で、前回令和元年の報告書概要版と比べるとかなり少ない。前回は自治連、地区社協、民生委員児童委員協議会、各まちづくりセンターに送付している。そのため反応などを一概に比較するのは難しいと考えている。本編と同じ市内配布先に配ることは可能と考えている。

(秦野議長)

サイズと予算により印刷できる部数も限られるという状況ではあるが、なるべく本編と同じ配布先に配布できるよう、可能であればPTAの代表者会、小中学校には1部ずつ掲示するという点について、意見はありますか。

(全委員)

意見なし。

(秦野議長)

意見が無いようなので、概要版については決定とします。

議題(2) 令和7年度関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会について

(秦野議長)

関東甲信越静地区の社会教育委員の研究大会について、令和7年度は神奈川県で開催します。アトラクションは横浜市から、記念講演については横浜市と座間市から案が出ていました。スローガン、研究主題については県の事務局案が出ていて、本日協議したいのは分科会についてです。実行委員会事務局の案について相模原市社会教育委員会議会の意見、提案を来月の実行委員会に持っていきたいと考えています。ご意見、ご提案をお願いします。

(石川委員)

今大学院で「強み」というワードが学生の間でブームになっていて、強みを生かす感じで何かがあると面白いかな、「強みかるた」というのを作って保育士の強みを高めようと考えたり、強みを活かした防災支援とかしているのも強みというワードを入れてみてはどうでしょう。

あとは、社会教育なのでリカレント、リスクリング、人生100年時代に向かってもう一度生産的な、創造的な生き方について考えるのもいいと思う。

(本橋委員)

私は共生社会の実現に関心がある。みんな大事だと分かっていると思うが、公民館、社会教育委員でどのように扱われているか、そのような視点があっても良いと思う。

また今は探求学習について、自分たちの街をもう少ししっかり見ようとか、そういうところから課題を共有して、その課題について地域の人が集まりながら少しずつ話し合っていく姿が私の社会教育のイメージですが、今の探求学習の考え方もまず課題が何なのかを探することが大事で、自主的、主体的に子供たちに探求学習をきなさいと言う割には私たち大人もやらなくてはいけないのかなという気がしている。

(小林委員)

本橋委員と同じく共生社会の実現、それと地域学校協働活動がなかなか全国的に広がっていかない状況を見ているので、共生社会と地域学校協働活動を合わせたような分科会ができると良い。

(雨宮委員)

僕は子ども若者支援現場におりまして、全国の小中学生の不登校が 30 万人を超えて、相模原市も昨年度は 1,811 名という数字が出ていたり、全国で 15 歳から 64 歳までの引きこもりという定義をされている方が 146 万人に達しているという現実があるなかで、社会教育の力で孤立から人、社会につながる視点が大事だと思っている。学校教育は学校教育としてある一方で学校教育という枠ではなくても学べる場を作っていく、社会教育にはそういう力があるのではないか。切れ目なく乳幼児から社会につながっていけるまでを支えることが社会教育にもできるのではないかという可能性に期待している。そのような視点で学べる分科会があると良い。

(渡邊委員)

私は 7 年か 8 年前ぐらい前に別の団体の全国集会を神奈川県で開催した時に実行委員をやったことがあり、当時は SDGs が言われ始めたころで、環境問題を前面に出すよりは SDGs の中の一つとして取り上げるという印象でした。今回のテーマ、興味については、どれがと言うよりは共通項とか、SDGs から発展し、つなげれば先ほどの防災や共生社会とつながると思う。その他に家庭教育について皆さんどのようなご意見をお持ちなのか聞きたい。

(若林委員)

4 年ほど関わっている市の発達サポート講座で、悩みを相談できず一人で頑張っている方が、講座に来て初めて悩みを話すことができ泣いている方をたくさん見ているので、親支援、親の社会的なつながりについて充実した事例を持っている団体の話

を聞いてみたい。

(長沢委員)

私は子育て広場を運営しているので親支援に関心がある。私の所属している「子育てそうだん広場 Haere mai (はれまえ)」では父子講座として銀河の森プレイパークで小さな子とお父さんで、ただ歩いて子供が興味を持ったものを一緒になって観察して絵を描くということをやっている、こういう講座だとお父さんたちが結構来てくれる。今、探求学習は大事だと言われているので机の前での勉強とか講座だけではなくて外にも出つつ、できるような話も良いと思っている。

(安西委員)

私は今の世の中で近所の交流とか、地域コミュニティ、そういった付き合いの場が本当に無くなっていると感じている。私は子ども会などを中心に活動しているが、特に体験活動を中心にどうやってお父さん、お母さんに興味を持ってもらうかというのを中心に考えている。世代間の交流、コミュニティと体験活動、そのようなものを中心にしたいと考えている。

(中村委員)

小林委員の「繋がりづくりと地域づくり」に共感している。つながりと街を作っていく、地域を作っていくことがとても大事なのではないかと私はずっと思っている。PTA もそうだけど、人とのつながりは一度関わりを無くすと途切れたままになってしまう。そこで、家庭教育や社会教育に興味がある人が周りの人に「ちょっと一緒に行かない？」という雰囲気になるスローガンと、つながりを作った結果、地域が形成され、それがずっと持続できる、そういった街が続いていくようなテーマが良いと思っている。

(金子委員)

私は防災を視点とした街づくりに興味がある。何があっても命あってこそで、神奈川県内外から一事例ずつということであれば、被災して大変な思いをされ、乗り越えられた方の貴重なお話を聞きたい。神奈川県はこのような体験が少ないように感じている。災害はいつ起こってもおかしくないので、防災を視点としたまちづくりに興味がある。

(奈良田委員)

自分は職業柄だと思うのだけど、学校、地域、繋がりというところを聞きたい。コロナの影響で子どもたちが地域に出なくなり、あるいは学校に入ってくるのを控えて

もらった時期があった。去年あたりから少しずつ戻ってきてはいるが、子どもたちは地域に出て交流して学ぶことが沢山ある。そこは大事にしていきたいので地域、つながり、子どもの活動の連携について学びたい。

(大久保副議長)

私も公民館の地域の団体の活動に携わってきた経験から地域のつながりが希薄になっていると感じている。地域とのつながりがあれば自然発生的に動きがでることもあるのではないかな。そういうものを通じて解決できる問題もあると私は考えている。学校だけではなく、大きくとらえて繋がりが大事だということをテーマとして考えてはどうか。

(石川委員)

これまでの意見を聞いていると、以前の社会教育委員会議のテーマであったネットワーク、コミュニティ、防災、共生社会があるかなと思う。その他には子育て支援や孤立についてもインクルーシブという視点でテーマにしていけると思う。

(秦野議長)

本日の皆様の発言から繋がり、繋がりから地域が作られていくこと、若者やすべての世代で孤立している人を置き去りにしないことが社会教育でできるのではないかなということが共通項だったような気がするので、それをスローガンに入れる、分科会については皆さんから頂いたご意見を整理して実行委員会に出したいと思います。本日の皆さんの意見のまとめについては議長と事務局に一任でよいでしょうか。

(全委員)

反対意見なし。

(秦野議長)

また、大会当日は手伝いだけではなく、社会教育委員として学びの機会にするため、各委員興味のある分科会に参加することを考えているのでよろしくお願いいたします。

秦野議長の挨拶で会議を終了した。

以 上

令和6年度 第1回社会教育委員会議定例会出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	奈良田 久	相模原市立小学校長会		出席
2	金子 友枝	相模原市文化協会		出席
3	中村 岳彦	相模原市P T A連絡協議会		出席
4	大久保 宗俊	相模原市公民館連絡協議会	副議長	出席
5	安西 信行	相模原市青少年関係団体連絡会		出席
6	長沢 亜希子	こみかる・きつず相模原		出席
7	若林 由美	一般社団法人 こども家族早期発達支援学会事務局長		出席
8	石川 利江	学識経験者（桜美林大学教授）		出席
9	秦野 玲子	学識経験者（RE Learning代表）	議長	出席
10	本橋 明彦	学識経験者（（学）相模女子大学事務局長 （総務担当理事））		出席
11	小林 政美	学識経験者（特定非営利活動法人男女共同参画 さがみはら 副代表理事）		出席
12	高橋 修一	公募		欠席
13	渡邊 健一	公募		出席
14	雨宮 健一郎	特定非営利活動法人文化学習協同ネットワーク		出席